

ライフステージの変化を「自分の糧」にしてみよう！

柘中智恵子 熊本大学大学院生命科学研究部准教授

希少難病患者との出会いが研究者へと導いてくれた

病院看護師時代に、希少難病で遺伝性疾患の患者さんやご家族と出会い、その現状の厳しさを目の当たりにし、言葉が出ないほどの衝撃を受けました。このような人々への看護を専門的にできる看護師になりたいと思い、そのためにはもっと幅広い勉強や活動をしなれば……と決意。母校である熊本大学に教員として戻りました。

私の研究キーワードは『難病看護』と『遺伝看護』『遺伝カウンセリング』。看護師と認定遺伝カウンセラーという立場で、看護実践と教育そして研究を行っています。難病は希少疾患で遺伝性のものが多く、自分の病と闘いながら、子どもへの遺伝の不安を抱えたり、未発症でも将来発症するのではないかという恐怖に怯えていらっしゃる方もいます。難病と遺伝というふたつの重荷を抱えた患者さんやご家族が、日々を自分らしく暮らしていくためには、何を考えてもらうことが重要か、どういった支援が必要か、これが私の研究テーマです。

ライフステージが変わることを逆手にとって糧に！

現在は、教育者、実践者、研究者、学生といったいくつもの立場にあるため、ワークライフバランスについて語れる状況にないのかもしれませんが。それでも人には「やらなければならない時期」というものがあると、自分の経験を通して考えています。

私の子どもがまだ小さかった頃は、保育サポーターの力を借りたり、また夫と協力し合ったりと、さまざまな方の支えをいただきながら自分の道を進んできました。大変な時もありましたが、今ではそれもまた良い思い出となっています。

女性は、その人生において結婚や出産があると、やりたいこととのバランスをとることが難しくなります。また、すべてのことに同じエネルギーを絶えず注げるわけでもありません。しかし、それを「難しいこと」として捉えるのではなく、ぜひ「自分の糧」にして前進してもらいたいと思います。



まず患者さんの話を聴く、というのが私の一番大切な仕事です。その次に何が出来るか？
自問自答の日々はこれからも続きます



Chieko KUKINAKA

看護学科
病院（看護師）
大学保健室
短大教員（修士課程修了）
大学教員
博士課程在籍中

One day

6:00 起床
7:00 大学へ
8:00 病院実習
講義またはリサーチトレーニング
病院外来や病棟で
遺伝カウンセリング担当
19:00~22:00 終業→帰宅
24:00 就寝

患者さんとも考えて歩むこと！これが私の看護の原点

◎座右の銘

人生はそれを感じる者にとっては悲劇だが、それを考える者にとっては喜劇である（ゲーテ）

profile

くきなかちえこ / 1984年熊本大学医療技術短期大学部看護学科卒業。1999年熊本大学法学部法学研究科法律学専攻修士課程修了、2008年広島大学大学院保健学研究科博士後期課程入学（在籍中）。1984年より熊本大学医学部附属病院勤務、その後、熊本工業大学学生部保健課、熊本大学医療技術短期大学で助手として勤務。2004年より熊本大学医学部保健学科助手、助教を経て2012年より現職。2009年認定遺伝カウンセラー資格取得。



Q.女性ということで有利だと感じる点はどのようなことですか？

- 女性研究者が少ない分野なので注目してもらえる
- 女性に特有な問題の解決ができるから
- 「女性の視点」ということで尊重してもらえる